

貴重な歴史的・文化的遺産である汐見坂の石垣保全のため

どうかご賛同ください

〔設立趣意書〕

藪下通りは、江戸時代からある道です。明治 25 (1892) 年、その坂上に、森鷗外が住居を構え、「観潮楼」と名付け、終生ここで暮らしました。観潮楼は、鷗外を慕う作家たちが集うサロンでもあり、その 1 人、永井荷風は、随筆『日和下駄』の「坂」の章で、藪下通りを「一番好きな坂」と記しています。藪下通り汐見坂には、玉石の石垣が連なり、その上には樹木が茂り、この石垣を中心に「古き良き東京」をイメージさせる風景がありました。貴重な歴史的・文化的環境であり、文京区教育委員会発行の「ぶんきょう史跡めぐり」でも、写真付きで紹介されています。近隣住民にとっては、かけがえのない風景遺産であり、他地域、遠方からも、毎日のように散策の方々が訪れています。

ところが、近年、その風景や町並みを形作ってきた塀や建物や樹木などが次々と姿を消しました。そして、遂に、藪下通り汐見坂のシンボルとも言える石垣まで姿を消そうとしています。

今年 (2019 年) 5 月、この石垣の上に、マンション建設計画の立て看板が立っているのを見たある住民が、ご近所に事態を話してまわり、有志と共に署名活動を始めました。たちまち約 500 筆の署名が集まり (7/5 現在)、すでに 375 筆を文京区に提出しています。

文京区は「建築基準法に基づき道路の拡幅と防災上の安全性を確保するためセットバックするよう」指導しています。マンション建設に当たっては、業者に石垣の撤去を求めています。

「何とかならないか」この石垣を遺したいと想う人々の多くが、事態を憂いています。

そこで、さらに賛同者を募るため、「藪下通り汐見坂の石垣を守る会」を立ち上げ、新たな署名活動を始めました。私たちは何らかの石垣の保存に向けて、関係者の協議の場を設けるよう求めています。

貴重な歴史的・文化的環境を次代に伝えるのは、今生きている私たちの責務です。
どうぞご賛同いただきますよう、お願い申し上げます。

2019 年 7 月 5 日

藪下通り汐見坂の石垣を守る会

清水眞吉 大谷 明 大谷いづみ 河角栄夫 近藤元成 秋山眞芸実
木村民子 郷野伊都代

文京区長 成澤廣修 様

文京区議会 議長 海老澤敬子 様

森鷗外記念館（鷗外旧居跡）から根津神社の方へと下る坂道「藪下通り」の中ほどに、「汐見坂」という石碑が建つ石垣があります。彫塑家・朝倉文夫ゆかりの石垣です。

今ここにマンション建設計画があり、貴重な石垣が姿を消そうとしています。

巨大都市・東京の真ん中とは思えない藪下通り汐見坂の情景を後世に伝えたい、そのシンボル石垣を何とか残したい、というのは、多くの周辺住民の切なる願いです。

藪下通りの防災面にも配慮しつつ、何らかの石垣保存ができるよう、周辺住民など関係者が協議する場を設けてください。

貴重な歴史的・文化的環境を次代に伝えるのは、今生きている私たちの責務であることをご理解いただき、お力添えくださいますようお願い申し上げます。

氏 名	住 所

藪下通り汐見坂の石垣を守る会

連絡先：文京区千駄木 1-5-8 電話 03-3821-0833 大谷 明

文京区千駄木 2-10-1 電話 03-3821-9443 清水眞吉